第１学年英語科学習指導案

日　時　令和３年１１月２日（火）
学　級　宮古市立河南中学校　１年Ｂ組　３２名
授業者　教諭　髙橋　倫幸　（Ｔ１）
　　教諭　髙橋　広美　（Ｔ２）

１ 単元名　Research on Australia (SUNSHINE English Course 1　開隆堂)

２ 内容のまとまり「話すこと［やりとり］　ア」

３ 単元の目標

（１） 町や地域にあるものや交通手段について、英語で表現することができる。　【知識及び技能】

（２） 宮古市を訪れる外国人旅行客に宮古市のおすすめを紹介することができる。
【思考力、判断力、表現力等】

（３） 相手に伝わるように、宮古市のおすすめを紹介しようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

４ 単元について

(1)生徒について

ア　１学期は Our Project 1「あなたの知らない私」において、内容のまとまり「話すこと[発表] イ」から単元の目標を設定し、自己紹介を行った。その目標の達成に向けて、各プログラムで自己紹介につながる表現について重点的に触れ、Our Project 1 へとつなげた。

イ　話すこと［やり取り］については、１学期に行ったパフォーマンステストでは、教師や ALT からの質問を理解し、自分の意見を伝えようとしている生徒が多く、主体的に学習に取り組んでいた。

ウ　小学校の外国語では東北地方の各県の有名な場所や食べ物、お祭りについて、グループや個人で発表などを行ってきた。そこで今回の単元では、小学校で培った力を土台にさらに力を向上させるために宮古市のおすすめの食べ物について、やり取りを通して紹介できることを単元のゴールとする。

(2)教材について

ア　本単元は、健がパソコン室での調べ活動とオーストラリアからの留学生との対話を通して、オーストラリアの世界遺産や気候、クリスマスの文化について知る場面で構成されている。オーストラリアは社会でも学習しており、教科等横断的な視点も踏まえながら、内容理解を進めていきたい。扱う言語材料は「There ＋ be 動詞」、「How」についてとなるが、教科書のように場面状況を意識させた言語活動を通して適切に活用できるようにしたいと考え、単元の目標を「宮古市を訪れる外国人旅行客に、宮古市のおすすめの食べ物を紹介する」と設定した。

イ　単元のまとめとなる活動では『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「（３）話すこと［やり取り］　ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」を達成するために、宮古市を訪れている旅行客に ALT を見立て、宮古市のお

すすめの食べ物について紹介する。Scenes では、単元のゴールに向けて必要な言語材料を教師や生徒間とのやり取りを通して習得し、Think では内容理解を深めながら、言語材料の使用場面についても学習し、パフォーマンステストに役立てていく。そして、単元のまとめとしてALT からの質問に対し、場面状況を理解しながら即興で答えることができるように言語活動を進めていく。

(3)指導について

ア　本校ではユニバーサルデザインの視点を取り入れ、全ての子どもが「わかる・できる」という実感がもてるように授業づくりを配慮、工夫している。英語科ではパワーポイントや学習支援アプリ「ロイロノートスクール」を活用し、文法事項の視覚化を図るなどの工夫を行ってきた。また、今単元の最初にはパフォーマンステストのモデルを映像で提示し、身に付けたい資質・能力を全体で共有・焦点化できるようにした。

イ　即興でやり取りする事や会話を継続・発展させるための指導方法として、帯活動を取り入れ、既習事項を用いた質問のやり取りや相づち、繰り返し表現の学習を取り入れている。また、Program5 のパフォーマンステストでは人物紹介の発表を行い、Program6 のパフォーマンステストでは、人物紹介のやり取りを行い、Our Project2 につなげることができるように指導を行ってきた。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
［知識］ ① There + be 動詞や how の特徴やきまりに関する事項を理解している。 ［技能］ ① 町や地域について、There＋be 動詞や how、既習事項を用いて伝える技能を身に付けている。	① 外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝えている。	① 外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝えようとしている。

6 指導と評価の計画

※網掛けは記録に残す評価

時	学習活動	評価規準・評価方法等		
		知・技	思・判・表	態
1	単元のゴールとパフォーマンステストを共有し、ルーブリック評価をもとに、目指したいゴールを自己決定する。		① 行動観察 振り返りシート	① 行動観察 振り返りシート
2 ・ 3	There ＋ be 動詞や how の使用場面について Scenes を通して確認する。２時間目では There ＋ be 動詞を用いて、宮古市にあるものを聞いたり、答えたりする。３時間目ではいろいろな場所への交通手段を聞いたり、答えたりする。 （宮古駅前にいると想定して） T: Is there a good restaurant in Miyako? S: Yes. It's Janome. T: How can I go to Janome ? S: On foot.	技① 記述分析		
4 ・ 5	教科書本文を読んで、内容の概要や要点を捉える。またおすすめの食べ物や行き方の表現方法の確認をする。		① 行動観察	① 行動観察 振り返りシート
6 本 時	パフォーマンステストに向け、やり取りの練習を繰り返しながら、言語面・内容面の質的向上を図る。		① 行動観察 振り返りシート	① 行動観察 振り返りシート
7	別室で ALT が外国人旅行客役となり、場面状況を踏まえて質問に対して即興で答える。		パフォーマンステスト ※テストの様子を撮影し、教師は後日評価に活用する。	
8	単元テスト	知①技① ペーパーテスト	① ペーパーテスト	

7 本時の指導(6時間目/全8時間)

(1)目標

・外国人旅行客に宮古市のおすすめの食べ物屋さんを紹介することができるようになろう。

(2)評価規準

評価の観点	B「概ね満足である」と判断される状況	支援を要する生徒への手立て
【思考・判断・表現】	質問に対し、即興で2つ答えることができている。	モデルの例を参考にさせる。 答え方について、教師と一緒に答える。
【主体的に学習に取り組む態度】	質問に対し、即興で2つ答えようとしている。	モデルの例を参考にさせる。 ルーブリックを基に、ゴールに近づけるように声掛けを行う。

(3)研究との関わり(UDの視点)

焦点化…①導入において、パフォーマンステストのモデルを確認し、ルーブリックを基に目指すレベルを決定し、本時のゴールに結びつける。

視覚化…①ICTを用いてやり取りの活動を視覚的に表し、質問の内容や答え方を確認する。

共有化…①生徒間のモデルを参考にし、生徒自身のレベルを把握し、より高いレベルを目指させる。
②他の生徒から評価をしてもらい、良かった点や改善点を伝えあい、目指すレベルを確かめる